

小学校教育における博物館を活用した指導の在り方 — 歴史学習・地域学習を例として —

所属校：渋谷区立猿樂小学校
氏名：伊東大介
派遣先：東京学芸大学教職大学院

キーワード：博学連携・歴史学習・地域学習・生涯学習・教員と学芸員の協働

I 研究の目的

1 研究の背景

受験加熱等による知識先行型学習が多く行われ、情報の氾濫などの要因も加わり、社会体験・自然体験が減少している。歴史系博物館を見学した児童から「歴史に関係あるものがたくさん見られた」「むかしのものが見て触れる」という感想が聞かれ、普段の生活や学習でものに触れる体験が少ないことがわかった。

一方で「見学学習」「現地学習」は、より知的好奇心を刺激し、印象深い学習となることが多いにもかかわらず十分な成果を上げていない。そこで、博物館を見学先とする場合の学習内容の充実や学習方法の工夫により、学習の深化を図る方法を探るとともに、よりよく生きるための生涯学習の基礎を培う博物館活用学習の在り方を探ることが必要であると考えた。

2 研究のねらい

このような実態から、小学校の歴史学習・地域学習において、博物館を学習にどう「活用」するのが有効かを調べ、これからの小学校（学校教育）と博物館（社会教育）の連携の在り方を明らかにしようと考えた。具体的な研究のねらいは次の4点である。

- ① 学校と博物館の連携の現状を調べ、学習に効果的かつ現実的な連携内容・方法を明らかにする。
- ② 博物館の活用に関して、児童の関心を調べ、効果的な博物館活用方法を明らかにする。
- ③ 渋谷区における博学連携の効果的な在り方を、渋谷区の郷土博物館と連携し、学習活動を通して検討を行い、明らかにする。
- ④ 博物館の活用・博物館との連携によって、どのような効果があったかを明らかにする。

II 研究の方法

- ① 小学校における博物館を活用した指導の在り方について、文献、先行研究、学習指導要領、解説書、教科書の検討を行った。
- ② 博物館の調査については実際に訪問して視察・聞き取り・資料収集分析等を行う。
- ③ 博物館の活用の実態については、児童に対して質問紙法で調査した。

- ④ 小学校教育における博物館等を活用した歴史学習・地域学習指導の在り方については、文献研究と博物館調査及び児童の実態調査により、教材を選定し、指導計画を作成して、授業を通して結果を考察した。

III 研究の結果

1 小学校教育における博物館活用の意義

「生涯学習」「体験的な学習」の2つを満足させるものの一つに博物館の活用が考えられる。博物館は、学校教育を修了しても、各自の興味・関心に応じて利用できる施設であることから、まさに生涯学習の「拠点」と考えてもよい。そして、博物館で行われる「見学・観察・実験」などの活動は、どれも「体験的な学習」としてとらえられる。「体験的な学習」は「生きる力」を育成するための重要な要素の1つであり、「生涯学習の基礎」としての博物館の活用は、人生の早い段階、発達も考慮すれば、まさに小学校段階での取組がより一層効果的である。ここに博物館活用の基本的な意義を見出すことができる。

博物館を学習に活用することで、歴史・文化に関する具体的な事物に接し、知的好奇心の高まり、学習への動機付け、学習の深化が図られることになる。それらは、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲・態度・能力を高めていくことになり、博物館活用の高い水準での意義が存在すると考えることができる。子どもたちにとって、博物館は、生活・文化を見つめ直し、創造していく生涯にわたる学びの場となるものである。

2 博物館活用の状況・活用例

博物館ごとにみる博学連携の状況について1都1府8県30ヶ所の博物館を連携体制・連携内容の2つの側面から調査した。

連携体制については、地域（自治体）によって差があり、東京近郊では埼玉県との連携が目される。また、近年設置された館では、開館当初から学校との連携を視野に入れているところが多い。連携内容については、体験学習のプログラムやワークシートを提供しているところが多く、次いで、キット貸し出し、学芸員出前などを行っている博物館が見られた。

3 博物館の活用についての児童の実態調査

博物館利用に関する児童の実態・意識を所属校の

4・5・6年の児童126名に質問紙で調査した。

- どの学年も自然系博物館の見学利用が最多数。
- 動物園や水族館、美術館が博物館の一種だと言うことが知られていないことが分かった。
- 特定のテーマに基づいて展示を行っている「専門博物館」の見学が多いことが注目され、東京都内に専門博物館が多いことが理由であると考えられる。本研究で取り上げた「郷土博物館」見学は全体で4例しかなかった。
- 上位学年ほど、「自由に見学したい」「何人かのグループで見学したい」の比率の上昇が顕著。また、単に「見る」場所から「体験して楽しむ場所」へと意識が変化している。

4 博物館活用の具体策と実践事例

先行研究分析、博学連携状況調査、児童の実態から、現在の所属校での博物館の効果的な活用方法を考え、授業研究を行いながら、具体策の実践を試みた。

(1) 学芸員と教員が協働で学習活動をプロデュース

学習指導に博物館の展示内容を効果的に活用するためには、教員と学芸員の事前打ち合わせが必要不可欠である。しかし、現実には、教員の意識、学芸員・教員双方の忙しさ等から、十分にできていない現実がある。そこで協働の在り方を検討し、以下の具体策を実践し、学習活動に有効であることが明らかになった。

- ① 博物館実踏、電話、電子メール等での十分な事前打ち合わせ。
- ② 地域の観察ポイントを学芸員から助言。
- ③ 博物館で教員がT1、学芸員がT2での授業。
- ④ 学習内容と展示との関連について学芸員に相談。
- ⑤ 学芸員出前授業（教員T1、学芸員T2）。
- ⑥ 学芸員の助言による教材の工夫。

(2) 学芸員と教員が協働で学習環境を整備

「猿楽資料室（いわゆる郷土資料室）」「校歴資料室」の2つの校内の資料展示室について、教員と学芸員が協働整備することにより、よりわかりやすい展示を目指し、下記の取組を通して学芸員と教員のパートナーシップの在り方を探り、以下の連携策を実践した。

- ① 郷土博物館の学芸員に指導助言を受けながら、猿楽資料室・校歴資料室の整備を行う。
- ② 4年生「むかしの道具を使ってみよう」では、使用する道具を博物館から借りたり、道具の選択について相談し、助言を受け、授業を実施する。

(3) 事前事後学習の充実・学習課題意識の明確化

博物館活用の事前事後学習と学習課題意識の明確化と焦点化について、学習課題や所属校の特性に合わせた内容の実践を通して検討した結果、以下の点が重要であることが分かった。

- ① 3年地域学習において、探検に行く前に猿楽資料室で地域の概要や探検のポイントを確認する。
- ② 博物館見学前に中心となる展示物（今回は江戸図屏風）について事前学習を十分に行い、学習課題の焦点化を図る（6年歴史学習）。
- ③ 4年「むかしのくらし」では、種々の昔の道具の中から、数種類を選び出し、観察、スケッチ、使用体験の学習を行う。

(4) 博物館活用方法の工夫

「博物館が学校の近くで年度内に何回も見学・活用可能である」「1～2回の見学活用が可能である」「遠距離で見学活用できない」など学校によって異なる状況に合わせた指導計画、発達に応じた博物館活用の積み上げ計画を下記の内容で検討した。

- ① 遠足でも博物館のある公園を目的地に選び、展示を見学する。
- ② 区の予算で使用できるバスを活用し、なかなか行く機会の少ない遠方の博物館を見学する。
- ③ 区内巡りで博物館を見学する際、博物館に展示のある内容に関連する史跡をコースに組み込む。上記のような取組の積み重ねにより、今後更に博物館活用の可能性が高まると考えられる。

5 成果の還元

明らかになった博物館の効果的活用の具体的方法について、渋谷区教育研究会社会科部会で報告・提案した。また、博物館の効果的活用の基礎となる教員の博物館研修の実施について、区教育委員会に提言した。

IV 考察

各学年の授業研究で博物館活用の上記の具体策を取り入れて授業を行った成果は次の3点である。

- 地域学習における郷土博物館見学で、町探検と関連づけた見学内容で、学習が焦点化され、課題について詳しく調べることができた。
 - 博物館利用形態の工夫と内容の焦点化により、学習対象が明確になり、理解が深まった。
 - 歴史学習において、博物館活用の工夫と内容の焦点化で、幅広い時代像を描くことができた。
- 次の3点が今後の課題として考えられる。
- ・ 多忙な中での、「協働」の時間の確保
 - ・ 教科書の内容と展示内容の関係をどう考えるか
 - ・ 教員の博物館活用意識をどう高めるか